

山形県屋内スケート施設整備検討会議における説明内容

令和6年8月22日
山形県カーリング協会

I 補足説明

(県カーリング協会の目的)

山形県カーリング協会の目的は、当協会規約に記載の通り「カーリングの普及及び振興を通じた県民の心身の健全な発達に寄与」することです。けして、県カーリング協会会員の競技力向上だけではありません。事実、ヒルズサンピアでカーリングを実施できていたころは、オープン大会やカーリング教室などを開催しておりました。また、今年2月には、盛岡市のアイスリンクを会場に、体験会を実施しております。

(カーリング人気の高まり)

日本代表の女子カーリングチームがオリンピックでメダルを獲得したことなどから、国民のカーリングに関する注目度が高まっております。産業能率大学スポーツマネジメント研究所が実施した調査によりますと、自分でもやってみたい競技がカーリング(31.5%)と2位のスノーボード(13.1%)に大きな差をつけて1位になっています。

【 資料—1 平昌冬季五輪の競技に関する調査 】

(カーリングは気軽なスポーツ)

カナダでは、カーリングが国民的スポーツで、カーリングホールが地域住民の集いの場になっているように気軽に体験できるスポーツです。年齢は、小学生から後期高齢者まで、健常者も体が不自由な方も一緒になってできる間口の広いスポーツです。施設にシューズとブラシが備えてあれば外に何もありません。

(普及拡大のための指導者等の養成等)

県で屋内スケートリンク建設の検討が始まったことを受けて、県カーリング協会では、次の目標を掲げ、普及指導者の養成等に努めているところです。

なお、この目標を達成するため、日本カーリング協会や東北ブロックカーリング協会への協力を仰ぎ、実力のある選手や指導者を招いてカーリング教室を開催する必要があると考えております。

さらには、学校の体育授業の一環としてのカーリングの実施、大学等のサークル活動でのカーリング競技、企業のチームの設立支援などにも取り組んでいきたいと考えております。

- ・カーリング体験者拡大 10,000人/年
- ・カーリング愛好者拡大 1,000人/年
- ・カーリング競技者の拡大 100人/年

(専用シートの必要性)

このためには、サブリンク（カーリング専用シート）の設置が不可欠であると考えます。アイスリンクをカーリングのできる状態に転換するためには、どんなにスムーズに準備できたとしても、4～5人で1時間以上費やしてしまいます。

- ・製氷作業（ザンボニー整氷、アイススクレーパー整氷、ペブルづくり）
- ・道具の準備（ストーン搬入、ハック設置等）

また、アイスリンクでカーリングを実施する場合は、安全上の観点からリンクを独占して使用する必要があります。

II 利用者見込み

(盛岡市アイスリンクの事例)

盛岡市アイスリンクに併設されているカーリングシート(2シート)の利用状況をみると、基礎調査で想定している数値(2,000人/年)は少なすぎるように思います。当協会としては、少なくとも、盛岡市並(10,000人/年)の利用者にすべく努力していきたいと考えております。

【 資料—2 カーリング施設利用者数等の調査 】

なお、利用見込み者数については、屋内スケート場の立地場所に大きく左右されるので、盛岡市のように、市街地であり、交通アクセスのよいところを選定すべきと考えます。

(利用料金の設定)

基礎調査で設定する利用料金(9,000円/2h・1シート)は、あまりにも高すぎるように思います。少なくとも、学校の体育関連事業での利用は、利用料金を免除する等の配慮が必要であると考えます。

(他県からの利用者)

隣接する宮城県や福島県には、現在、専用のカーリングシートがないので、山形県にできれば、隣接県等からの利用が相当に見込めると考えます。

<資料>

- 1 「平昌冬季五輪の競技に関する調査」 産業能率大学スポーツマネジメント研究所
- 2 「カーリング施設利用者数等の調査」 盛岡市アイスリンク

五輪前後に（事前：1万人+事後：1千人）アンケート調査を実施

平昌冬季五輪の競技に関する調査

（調査期間：五輪前 2018年1月31日～2月2日／五輪後 2018年2月26日～28日）

▼部門別ランキング（競技）

順位	観戦率	満足度
1位	フィギュアスケート	
2位	カーリング	スピードスケート
3位	スピードスケート	カーリング
4位	スキージャンプ	スノーボード
5位	スノーボード	ショートトラックスケート

順位	関心度上昇	自分でもやってみたい競技
1位	カーリング	
2位	スピードスケート	スノーボード
3位	スノーボード	フィギュアスケート
4位	フィギュアスケート	スピードスケート
5位	ショートトラックスケート	スキージャンプ

▼意識調査

ルールが分からないまま視聴した競技があった

YES, 70.4%

（ご参考）2020年東京五輪関連

順位	期待する競技	（主な理由）
1位	体操	「金メダルラッシュに期待したい」（福岡県 50代男性） 「30代に突入する絶対王者内村選手がどこまでいけるか」（山形県 30代男性） 「白井選手に新技で金を取ってほしい」（熊本県 40代女性）

■この資料に関するお問い合わせ先

産業能率大学 企画広報部企画広報課 電話：03-3704-9040 / E-mail：koho@hj.sanno.ac.jp

産業能率大学スポーツマネジメント研究所（所長：情報マネジメント学部教授 中川直樹）は、2月9日～25日まで開催された平昌冬季五輪の前後に「平昌冬季五輪に関する調査」を実施しました。事前調査は1月31日から2月2日まで1万人を対象に平昌冬季五輪実施競技の「関心度」を尋ね、事後調査は2月26日から28日まで事前調査の回答者から1千人を抽出し、「観戦率」や「満足度」などを追跡調査しました。調査はいずれもインターネット調査会社を通じて実施しています。

（※平昌冬季五輪の日本代表選手に関しては2018年3月13日に「平昌冬季五輪の選手に関する調査」を発表しています。）

調査の結果、「観戦率」と「満足度」の1位はフィギュアスケートでした。男子では羽生結弦選手が金メダル、宇野昌磨選手が銀メダルを獲得。女子では宮原知子選手が自己ベストの演技で4位に入賞するなど日本勢の活躍が目立ちました。大会前後で大きく関心度が上昇した「関心度上昇」と「自分でもやってみたい競技」はカーリングが1位になりました。カーリング女子の活躍により競技の視聴や実技に対する関心が高まっています。また、意識調査では「ルールが分からないまま視聴した競技があった」という回答が7割を超えました。

調査の設計・分析は、過去の五輪（北京、バンクーバー、ロンドン、ソチ、リオ）でも調査を実施した同研究所の小野田哲弥研究員（情報マネジメント学部准教授）が担当しました。本調査について小野田研究員は「注目度(Attention)の高い五輪の効果で、明らかに関心度(Interest)が上昇した競技がある。しかし、やってみたいという欲求(Desire)が芽生えても、記憶(Memory)が鮮明なうちに実施(Action)まで移しにくいのが冬季種目の特徴。競技レベルのさらなる向上には、社会的関心を持続させ、競技者の裾野を広げることが不可欠。そのための施策が求められるだろう」と話しています。

調査概要

調査方法：インターネット調査

調査期間：①事前調査：1月31日～2月2日／②事後調査：2月26日～2月28日

調査対象：①20代～60代の男女 計1万人／②20代～60代の男女 計1千人（①から1千人を抽出して追跡調査）

※サンプル割付（地域・年代・性別）は、総務省統計局「人口推計（2016年10月1日現在）」（2017年4月14日公表／調査時最新データ）に準拠

各部門について：

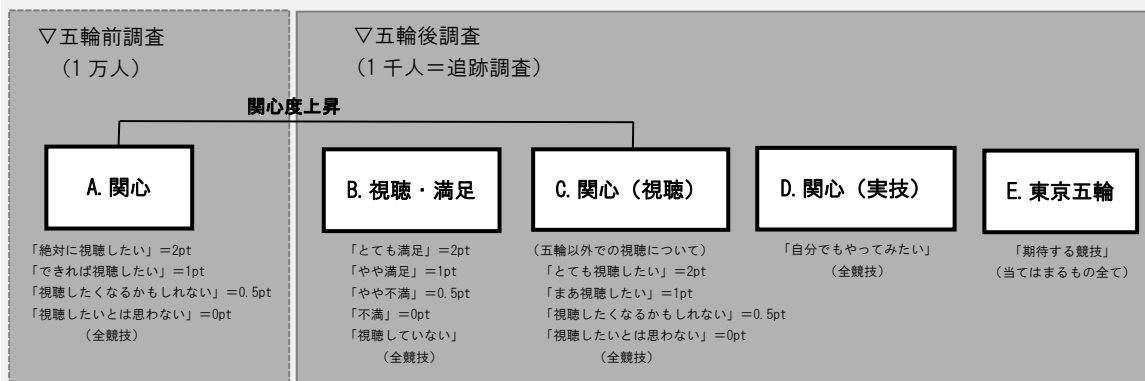
観戦率 = 平昌冬季五輪で実施された各競技について「視聴していない」と回答された以外の比率。

満足度 = 「視聴した」競技の満足度を4択で尋ね、その構成比（%）に以下の係数をかけて加算した合計値。①「とても満足」=2pt、②「やや満足」=1pt、③「やや不満」=0.5pt、④「不満」=0pt。

関心度上昇 = 事後調査「関心（視聴）」－事前調査「関心」より算出。

自分でもやってみたい競技 = 平昌冬季五輪で実施された各競技について「自分でもやってみたい」と回答された比率。

▼分析フレーム



◆データ集（各部門ランキング）

【観戦率】			【満足度】		
1位 フィギュアスケート 2位 カーリング 3位 スピードスケート			1位 フィギュアスケート 2位 スピードスケート 3位 カーリング		
順位	競技名	%	順位	競技名	pt
1	フィギュアスケート	84.7	1	フィギュアスケート	123.9
2	カーリング	80.0	2	スピードスケート	119.2
3	スピードスケート	78.6	3	カーリング	113.5
4	スキージャンプ	69.2	4	スノーボード	73.0
5	スノーボード	62.0	5	ショートトラックスケート	69.9
6	ショートトラックスケート	56.2	6	スキージャンプ	64.2
7	ノルディック複合	52.6	7	ノルディック複合	52.7
8	フリースタイルスキー	34.4	8	フリースタイルスキー	34.8
9	アルペンスキー	31.4	9	アルペンスキー	29.3
10	クロスカントリースキー	31.1		クロスカントリースキー	29.3

※平昌冬季五輪実施競技のうち「視聴していない」を除いた比率。
（録画やダイジェストを含み、大会期間を通じて一度でもその競技が視聴された比率。）

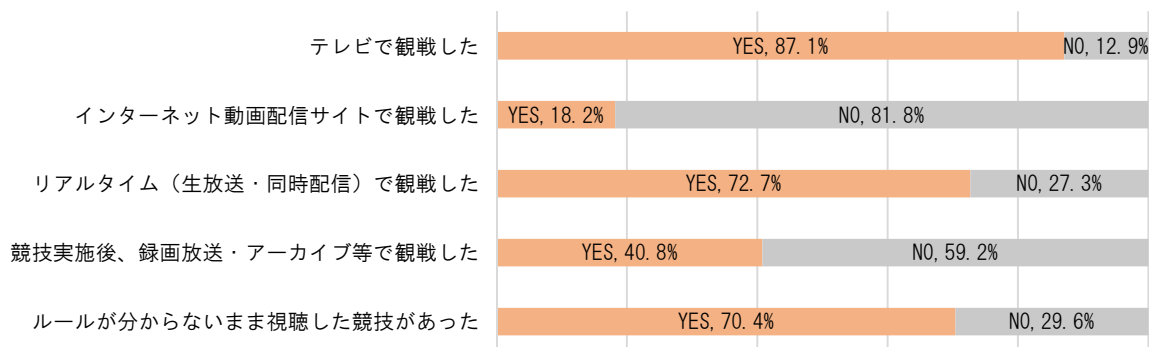
「視聴した」競技の満足度を4択で尋ね、その構成比（%）に以下の係数をかけて加算した合計値。①「とても満足」=2pt、②「やや満足」=1pt、③「やや不満」=0.5pt、④「不満」=0pt。

【関心度上昇】			【自分でもやってみたい競技】		
1位 カーリング 2位 スピードスケート 3位 スノーボード			1位 カーリング 2位 スノーボード 3位 フィギュアスケート		
順位	競技名	pt	順位	競技名	%
1	カーリング	+46.2	1	カーリング	31.5
2	スピードスケート	+28.3	2	スノーボード	13.1
3	スノーボード	+20.9	3	フィギュアスケート	8.3
4	フィギュアスケート	+20.4	4	スピードスケート	5.9
5	ショートトラックスケート	+18.1	5	スキージャンプ	4.1
6	アイスホッケー	+6.4	6	アイスホッケー	4.0
7	フリースタイルスキー	+3.2		アルペンスキー	4.0
8	ノルディック複合	+1.2	8	ボブスレー	3.7
9	アルペンスキー	+0.94	9	クロスカントリースキー	2.9
10	バイアスロン	+0.90	10	ショートトラックスケート	2.1

※事後調査「関心」－事前調査「関心（視聴）」より算出。

※平昌冬季五輪で実施された各競技について「自分でもやってみたい」と回答された比率。

◆意識調査結果



（ご参考）2020年 東京五輪関連

【2020年東京五輪で期待する競技】

1位 体操 2位 卓球 3位 柔道

順位	競技名	%	(主な理由)
1	体操	47.3	「金メダルラッシュに期待したい」（福岡県 50代男性） 「30代に突入する絶対王者内村選手がどこまでいけるか」（山形県 30代男性） 「白井選手に新技で金を取ってほしい」（熊本県 40代女性）
2	卓球	42.6	「男子も女子も史上最強と言ってよい有力選手がそろっている」（東京都 20代男性） 「有望な若い選手たちの活躍に期待している」（北海道 40代男性） 「メダルを期待できる選手が多いので」（大阪府 40代女性）
3	柔道	41.7	「全階級制覇を目標に頑張ってもらいたい」（北海道 60代男性） 「お家芸として連日メダルラッシュを期待している」（熊本県 40代女性） 「面白い試合内容が期待できそう」（佐賀県 30代女性）
4	水泳 競泳	40.4	「試合内容が楽しめそうだし、メダルが期待できそう」（佐賀県 30代女性） 「新記録を更新し続けている選手たちに期待」（青森県 60代女性） 「有望な選手が力をつけてきているので」（兵庫県 60代女性）
5	野球	38.9	「オリンピックで野球が復活するので興味がある」（青森県 30代男性） 「日本の野球がどこまで強いかわかりたい」（広島県 50代女性） 「日本の国民的スポーツだから」（兵庫県 30代男性）
6	レスリング	33.6	「レベルの高い技の応酬が見たい」（和歌山県 30代男性） 「これまで多くのメダルを獲得しているので期待している」（北海道 40代男性）
7	マラソン	30.4	「久しぶりに日本新記録が更新されたので」（大阪府 50代男性） 「日本人選手に金メダルを取ってほしい」（埼玉県 40代女性）
8	バドミントン	27.4	「ラリーになると盛り上がる」（北海道 40代男性） 「リオ同様に金メダルを獲ってほしい」（愛知県 60代女性）
9	陸上競技 トラック	24.5	「素晴らしいバトンパスのリレーを見たい」（宮城県 60代女性） 「9秒台が出るか」（京都府 50代女性）
10	サッカー	22.5	「スター選手の活躍が見られる可能性がある」（東京都 60代女性） 「応援しているチームの選手が出場して活躍してほしい」（北海道 40代男性）

※2020年東京五輪実施競技のうち「期待している」と回答された比率。（当てはまるもの全て）

以上

カーリング施設利用者人数等の調査（盛岡アイスリンク調べ）

項 目	完成前年度	完成年度	1年後	2年後	3年後	4年後	5年後	6年後	7年後
	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
カーリング施設の利用者延べ人数		4,462	7,076	8,363	10,898	9,002	8,187	10,258	3,405
カーリング教室の参加人数		624	1,558	2,057	2,224	672	803	1,481	460
県カーリング協会への登録者人数		不明	不明	124	146	155	140	179	193
カーリングのチーム数 （県リーグ参加チーム数）		不明	不明	不明	16	14	13	17	18
競技審判員資格取得者数		不明	不明	不明	32	30	33	34	34

※令和4年7月時点

【説明事項】

※1 平成27年、岩手県内にはじめてカーリングの専用シート（2シート）が整備された。